

I 計画の概要

第1 計画策定の趣旨

全国の刑法犯の認知件数は平成8（1996）年以降、毎年戦後最多を記録し、平成14年（2002）にピークを迎えましたが、犯罪抑止のための様々な取組の結果、平成15（2003）年以降、減少傾向にあります。一方で、刑法犯検挙者に占める再犯者の割合は上昇傾向にあり、平成28（2016）年には約半数の48.7%となり、再犯防止対策を推進する必要性と重要性が指摘されました。

平成28年（2016）12月に公布、施行された再犯の防止等の推進に関する法律（以下、「再犯防止推進法」という。）の第4条第2項では、県は、再犯の防止等に関し、国との適切な役割分担を踏まえて、その地域の状況に応じた施策を策定し、実施する責務を有することとされました。

また、同法第8条第1項では、県は、国の再犯防止推進計画を勘案して、県における再犯の防止等に関する施策の推進に関する計画を定めるよう努めることとされました。

県は、こうした現状を踏まえ、起訴猶予者、執行猶予者、罰金・科料を受けた者、矯正施設出所者、非行少年若しくは非行少年であった者（以下、「犯罪をした者等」という。）が立ち直り、地域社会の一員として、共に生き、支え合う社会づくりを促進し、地域共生社会を実現するため、令和3（2021）年度を初年度とした長崎県再犯防止推進計画を策定します。

SDGs について

平成27（2015）年9月、ニューヨークの国連本部において「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals 略称 SDGs）を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。日本政府も、平成28（2016）年5月20日に内閣総理大臣を本部長、全閣僚を本部員とする「持続可能な開発目標推進本部」を設置、同年12月22日には、「SDGs実施指針」を策定し、その中で、各地方自治体に「各種計画や戦略、方針の策定や改定に当たってはSDGsの要素を最大限反映することを推奨」することとしています。犯罪をした者等の再犯防止に関しては、「SDGs実施指針」の優先課題とされていることから、本計画においても今後、この趣旨を踏まえて取り組めます。



再犯防止推進分野で貢献が可能であると考えられる目標

 1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	 2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
 3 全ての命を健康と福祉を守る	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	 4 質の高い教育をみんなに	すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
 5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	 8 働きがい、経済成長、雇用	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する
 10 人や国ごとの格差をなくす	各国内及び各国間の不平等を是正する	 11 住み続けられるまちづくりを	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する
 16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する	 17 パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

第2 計画の位置づけ

この計画は、再犯防止推進法第8条第1項に定める地方再犯防止推進計画として策定する計画です。

第3 基本理念

だれ一人取り残さない“やさしい社会”の実現を目指します。

第4 重点課題

国の再犯防止推進計画に掲げられている5つの基本方針を踏まえ、犯罪をした者等が社会において孤立することなく円滑な社会復帰ができるよう支援し、その結果として、県民が犯罪による被害を受けることを防止し、安全で安心して暮らせる社会が実現されるよう、次の重点課題に取り組みます。

- 1 関係機関・団体等との連携体制の構築
- 2 就労・住居の確保
- 3 保健医療・福祉サービスの利用の促進等
- 4 学校等と連携した修学支援の実施、非行等の防止
- 5 犯罪をした者等の特性に応じた効果的な指導のための取組等
- 6 民間協力者の活動の促進、広報・啓発活動の推進

国の再犯防止推進計画における5つの基本方針

- 1 犯罪をした者等が、多様化が進む社会において孤立することなく、再び社会を構成する一員となることができるよう、あらゆる者と共に歩む「誰一人取り残さない」社会の実現に向け、関係行政機関が相互に緊密な連携をしつつ、地方公共団体・民間の団体その他の関係者との緊密な連携協力をも確保し、再犯の防止等に関する施策を総合的に推進すること。
- 2 犯罪をした者等が、その特性に応じ、刑事司法手続のあらゆる段階において、切れ目なく、再犯を防止するために必要な指導及び支援を受けられるようにすること。
- 3 再犯の防止等に関する施策は、生命を奪われる、身体的・精神的苦痛を負わされる、あるいは財産的被害を負わされるといった被害に加え、それらに劣らぬ事後的な精神的苦痛・不安にさいなまれる犯罪被害者等が存在することを十分に認識して行うとともに、犯罪をした者等が、犯罪の責任等を自覚し、犯罪被害者の心情等を理解し、自ら社会復帰のために努力することの重要性を踏まえて行うこと。
- 4 再犯の防止等に関する施策は、犯罪及び非行の実態、効果検証及び調査研究の成果等を踏まえ、必要に応じて再犯の防止等に関する活動を行う民間の団体その他の関係者から意見聴取するなどして見直しを行い、社会情勢等に応じた効果的なものとする。
- 5 国民にとって再犯の防止等に関する施策は身近なものではないという現状を十分に認識し、更生の意欲を有する犯罪をした者等が、責任ある社会の構成員として受け入れられるよう、再犯の防止等に関する取組を、分かりやすく効果的に広報するなどして、広く国民の関心と理解が得られるものとしていくこと。

第5 計画の期間

令和3（2021）年度から令和7（2025）年度までの5年間とします。

第6 再犯の防止等に関する施策の指標

（1）再犯防止等に関する施策の成果指標

再犯防止推進施策を進める上での成果指標を次のとおり設定し、その達成に向けて取り組みを進め、達成状況を検証します。

長崎県における刑法犯検挙者中の再犯者数を、令和7（2025）年度末までに714人以下（基準値の20%減）にする。

[基準値] 令和元（2019）年の刑法犯検挙者中の再犯者数（892人）

【出典：法務省提供データ】

(2) 再犯防止に関する施策の動向を把握するための参考指標
[長崎県の現状(データ)]

〈就労・住居の確保関係〉

① 協力雇用主の状況

協力雇用主数	165社
実際に <u>刑務所</u> 出所者等を雇用している協力雇用主数	16社
協力雇用主に雇用されている刑務所出所者数等	23人

【出典：法務省提供データ（令和元（2019）年10月1日現在）】

② 県内所在刑事施設における出所者（289人）のうち、帰住先がない者の数及びその割合

56人（19.4%）

【出典：法務省提供データ（令和元（2019）年）】

③ 更生保護施設及び自立準備ホームにおいて、一時的に居場所を確保した者の数

更生保護施設	173人
自立準備ホーム	15人

【出典：法務省提供データ（令和元（2019）年）】

〈保健医療・福祉サービス利用の促進関係〉

① 特別調整により福祉サービス等の利用に向けた調整を行った件数
53人

【出典：長崎県地域生活定着支援センター報告（令和元（2019）年度）】

② 薬物事犯保護観察対象者（21人）のうち、保健医療機関による治療・支援を受けた者の数及びその割合

1人（5%）

【出典：長崎保護観察所提供データ（令和元（2019）年）】

③ 薬物乱用防止教室等の開催件数

263回（参加人数15,936人）

【出典：長崎県薬務行政室（令和元（2019）年）】

〈学校等と連携した修学支援の実施、非行等の防止〉

保護観察が開始された少年のうち、就学・復学した者の数
5人

【出典：長崎保護観察所提供データ（令和元年（2019）年）】

〈民間協力者の活動の促進等、広報・啓発活動推進関係〉

① 保護司の状況

定数 890名

現員数 797名

充足率 89.6%

【出典：法務省提供データ（令和2（2020）年1月1日現在）】

② “社会を明るくする運動” 行事参加者数

33,335人

【出典：法務省提供データ（令和元（2019）年）】